

ヤマハ電子型グランドピアノ

グランドタッチ

DGP-5/DGP-7

取扱説明書



安全上のご注意 (必ずお守りください)

ここに示した注意事項は、製品を正しくご使用いただき、あなたや他の人々への危害や損害を未然に防止するためのものです。

注意事項は危害や損害の大きさと切迫の程度を明示するために、誤った取り扱いをすると、生じることが想定される内容を「警告」と「注意」に区分しています。いずれもお客さまの安全や機器の保全に関する重要な内容ですので、必ずお守りください。

記号表示について

この機器に表示されている記号や取扱説明書に表示されている記号には、次のような意味があります。

	注意 感電の恐れあり キャビネットをあけるな		注意：感電防止のため、パネルやカバーを外さないでください。 この機器の内部には、お客さまが修理／交換できる部品はありません。点検や修理は、必ずお買い上げの楽器店または巻末のヤマハサービス網にご依頼ください。
---	-------------------------------------	---	--

△記号は、危険、警告または注意を示します。上記の場合、⚡は機器の内部に絶縁されていない「危険な電圧」が存在し、感電の危険があることを警告しています。また、⚠は注意が必要なことを示しています。

⊘記号は、禁止行為を示します。記号の中に具体的な内容が描かれているものもあります。

●記号は、行為を強制または指示することを示します。記号の中に具体的な内容が描かれているものもあります。

※お読みになった後は、使用される方がいつでも見られる所に必ず保管してください。



警告

この表示内容を見逃した取り扱いをすると、死亡や重傷を負う可能性が想定されます。



本機の内部を開けたり、内部の部品を分解したり改造したりしない。

感電や火災、または故障などの原因になります。異常を感じた場合など、機器の点検修理は、必ずお買い上げ店または巻末のヤマハサービス網にご依頼ください。



浴室や雨天時の屋外など、湿気の多いところで使用しない。また、本機の上に花瓶や薬品など液体の入ったものを置かない。

感電や火災、または故障の原因になります。



使用中に電子音が出なくなったり、異常なおい煙が出た場合は、すぐに電源スイッチを切り電源プラグをコンセントから抜く。

感電や火災、または故障の恐れがあります。至急、お買い上げ店または巻末のヤマハサービス網に点検をご依頼ください。



電源は必ず交流100Vを使用する。

エアコンの電源など交流200Vのものがあります。誤って接続すると、感電や火災の恐れがあります。



手入れをするときは、必ず電源プラグをコンセントから抜く。

また、濡れた手で電源プラグを抜き差ししない。感電の恐れがあります。



電源プラグにホコリが付着している場合は、ホコリをきれいに拭き取る。

感電やショート of の恐れがあります。



本機の内部に異物や液体が入った場合は、すぐに電源スイッチを切り電源プラグをコンセントから抜く。

感電や火災、または故障の恐れがあります。至急、お買い上げ店または巻末のヤマハサービス網に点検をご依頼ください。



注意

この表示内容を見逃した取り扱いをすると、傷害を負う可能性または物的損害が発生する可能性が想定されます。



電源コードをストーブなどの熱器具に近づけたり、無理に曲げたり、傷つけたりしない。また、電源コードに重いものを乗せない。
電源コードが破損し、感電や火災の原因になります。



電源プラグを抜くときは、電源コードを持たずに、必ず電源プラグを持って引き抜く。
電源コードが破損して、感電や火災が発生する恐れがあります。



タコ足配線をしない。
音質が劣化したり、コンセント部が異常発熱したりすることがあります。



電源コードやプラグが傷んだときは使用しない。また、長時間使用しないときや落雷の恐れがあるときは、必ずコンセントから電源プラグを抜く。
感電、ショート、発火などの原因になります。



他の機器と接続する場合は、すべての機器の電源を切った上で行う。また、電源を入れたり切ったりする前に、必ず機器のボリュームを最小 (0) にする。
感電または機器の損傷の恐れがあります。



直射日光のあたる場所や暖房器具の近くなど、極端に温度が高くなるところ、逆に温度が極端に低いところ、またホコリや振動の多いところで使用しない。
外装が変形したり、内部の部品が故障したりする原因になります。



テレビやラジオ、スピーカーなど他の電気製品の近くで使用しない。
デジタル回路を多用しているため、テレビやラジオなどに雑音が生じる場合があります。



不安定な場所に置かない。
機器が転倒して故障したり、お客さまがケガをしたりする原因になります。



本機を移動するときは、必ず電源コードなどの接続ケーブルをすべて外した上で行う。
コードを傷めたり、お客さまが転倒したりする恐れがあります。



本機を移動するときは、引きずらない。
床を傷つける恐れがあります。



本機を移動するときは、手や足を挟まないようにする。
ケガをする恐れがあります。



本機を使用しないときは、鍵盤蓋を閉める。鍵盤蓋の開閉は、両手で静かに行う。また、お客さまや周りの方が、不用意に鍵盤蓋に触れないようにする。(DGP-7のみ。DGP-5には鍵盤蓋はありません。)
鍵盤蓋に手や指を挟み、ケガをする恐れがあります。



地震のときは、本機から離れる。
地震による強い揺れで本機が動いたり転倒したりして、ケガをする恐れがあります。



本機の上に乗ったり、重いものを乗せたりしない。また、スイッチやツマミ、入出力端子などに無理な力を加えない。
本機が破損する原因になります。



大きな音量で長時間使用しない。
聴覚傷害の原因になります。特に、ヘッドフォンを使用する場合や、アンプ、スピーカーと組み合わせて使用する場合は、大音量になりやすいためご注意ください。
万一、聴力低下や耳障りを感じたら、専門の医師にご相談ください。

不適切な使用や改造により故障した場合の保証は致しかねます。

長時間使用しないときは、必ず電源を切りましょう。

このたびは、ヤマハ電子型グランドピアノ・グランタッチをお買い求めいただきまして、まことにありがとうございます。

本製品を正しくお使いいただくため、お使いの前に本書をよくお読みください。

また、お読みになった後は、いつでもご覧になれるところに大切に保管してください。

本製品について

◆グランドピアノアクションによる本物のタッチ感

鍵盤を弾くとアクションが働きハンマーが動くアコースティックピアノと同様の動作により、グランドピアノに極めて近いタッチ感を実現しました。ピアノのレッスン用としても、十分にご使用いただけます。

◆速いパッセージにも追従する高精度の検出方式

鍵盤とハンマーの微妙な動きを、それぞれのセンサーが忠実に検出します。タッチの微妙なニュアンスをきめ細かくキャッチし、スタッカートやレガート奏法にも確実に追従します。

◆リアルなグランドピアノ音色

新開発のピアノ電子音源により、緻密な音色を実現。ピアノ独特の鋭い立ち上がりと美しい余韻、打鍵の強弱による音色の変化など、リアルなピアノ音色をお楽しみください。

◆音量調節が自由自在

演奏する時間や状況に合わせて、音の大きさを自由に調節できます。*1
また、ヘッドフォンを使用すれば、周囲のかたに気がねなく演奏できます。ヘッドフォンは2本まで接続でき、ヘッドフォン使用時にもレッスンや連弾ができます。

*1 音量ツマミを最小にしても、鍵盤をたたく音は消すことができません。

目 次

安全上のご注意	1	タッチの感度を切り替える	16
本製品について	3	キー(調)を変える(トランスポーズ)	17
付属品	4	リヤスピーカーの音量バランス/DGP-7のみ	18
基本編		他の機器と接続する	19
各部の名称	5	パーソナルコンピュータと接続する	20
ペダルのはたらき	6	他のMIDI機器と接続する	21
鍵盤蓋について/DGP-7のみ	7	・MIDI出力(MIDI OUT)端子の使用例	21
譜面板について	7	・MIDI入力(MIDI IN)端子の使用例	21
屋根の開閉について/DGP-7のみ	8	・HOST SELECTスイッチの設定	21
演奏する	9	・MIDI受信チャンネルの切り替え	22
・ヘッドフォンを使う場合	9	・ローカルコントロールオン/オフの設定	22
応用編		資料編	
音色の選択	10	試聴曲の再生	23
音色選択時のペダル効果	11	他音色デモ曲の再生	26
リバーブの設定	12	お手入れ	27
・リバーブの深さを調節する	12	音のエチケット	27
・リバーブの種類を切り替える	13	お引越しのときには	27
ピッチを変える	14	おもな仕様	28
・ピッチを切り替える	14	おかしいなと思ったら	29
・ピッチを微調整する	14	MIDIインプリメンテーションチャート	30
		保証とサービスについて	31

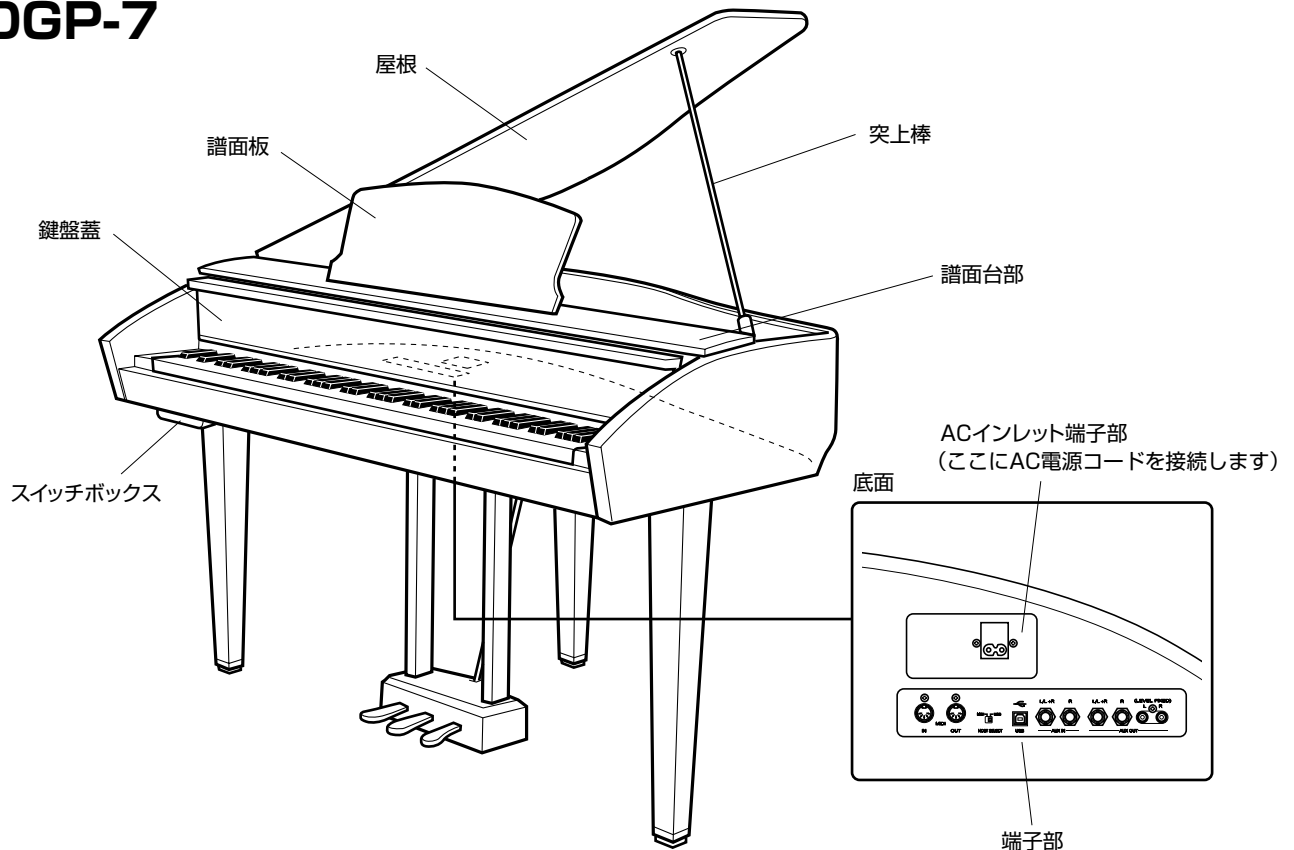
付属品 (お確かめください)

納入時には、次のものが付属されています。ご使用になる前にお確かめください。

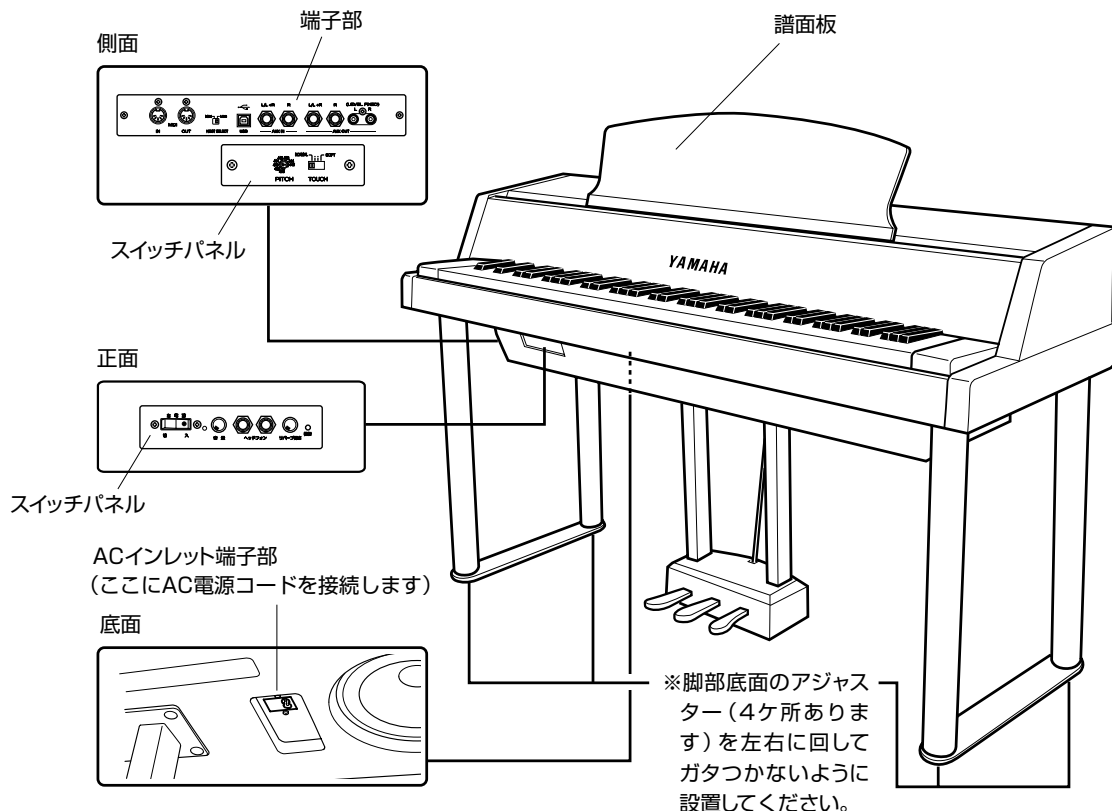
- ◆取扱説明書 ◆AC電源コード ◆楽譜集「ピアノで弾く名曲50選」
- ◆鍵盤カバー (DGP-5のみ)

各部の名称

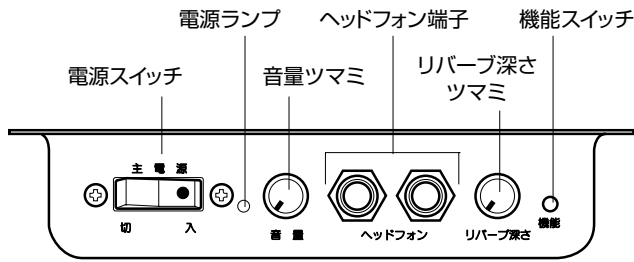
DGP-7



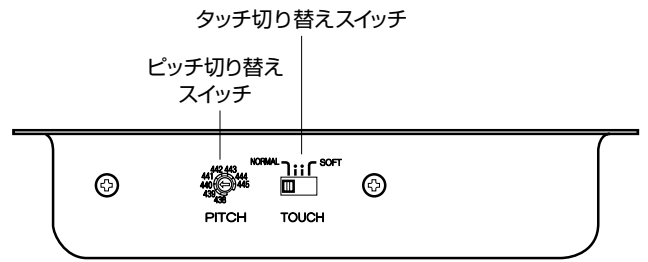
DGP-5



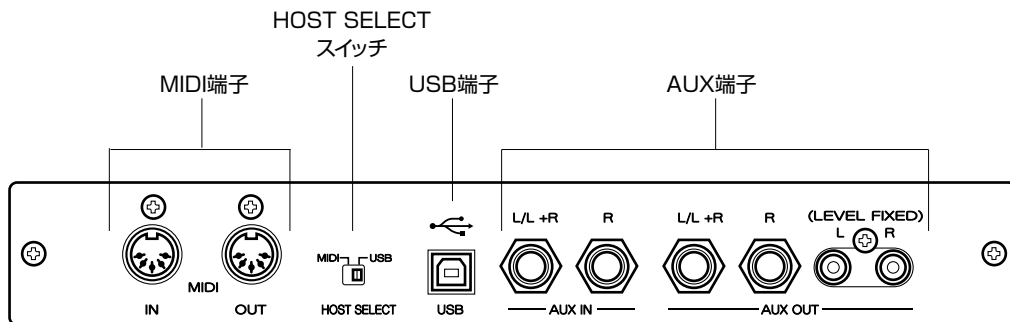
- DGP-7 スイッチボックス (正面部)
- DGP-5 スイッチパネル (正面部)



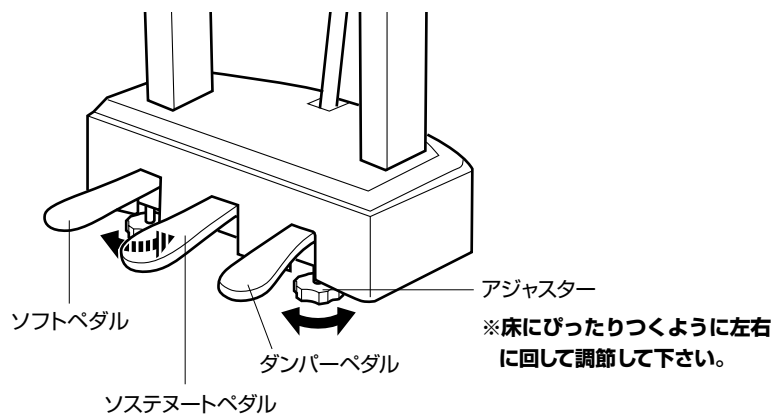
- DGP-7 スイッチボックス (背面部)
- DGP-5 スイッチパネル (側面部)



• 端子部



ペダルのはたらき (DGP-7 / DGP-5共通)



ダンパーペダル このペダルを踏むと、鍵盤から指を離しても、音を長く響かせることができます。

ソステヌートペダル このペダルを踏んだときに押さえていた鍵盤の音だけを、鍵盤から指を離しても長く響かせることができます。ペダルを踏んだあとに弾いた音には、効果はかかりません。

ソフトペダル このペダルを踏むと、音の響きが柔らかくなります。

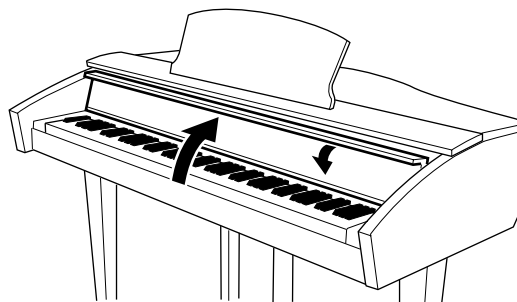
鍵盤蓋について / DGP-7のみ (DGP-5には鍵盤蓋がありません)

開けるとき

- ・両手を添えて、ゆっくりと起こします。

閉めるとき

- ・両手を添えて、ゆっくりと閉めます。



- ・本機には蓋がゆっくり閉まるソフトランディング式の鍵盤蓋を採用しています。鍵盤蓋の開閉は両手で静かに行い、無理に力を加えないようにしてください。また自分や周りのかたが、不用意に鍵盤蓋に触れないようにしてください。鍵盤蓋に手や指をはさみ、ケガをする恐れがあります。
- ・鍵盤蓋が閉まる速度がはやくなった場合には、お買い上げの販売店または巻末のヤマハサービス網に修理をご依頼ください。(保証期間以降は有料修理となります。)

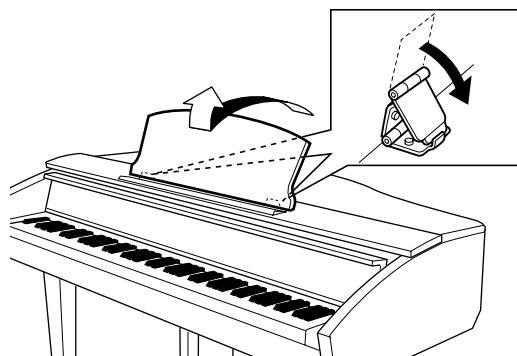
譜面板について

DGP-7

立てるとき

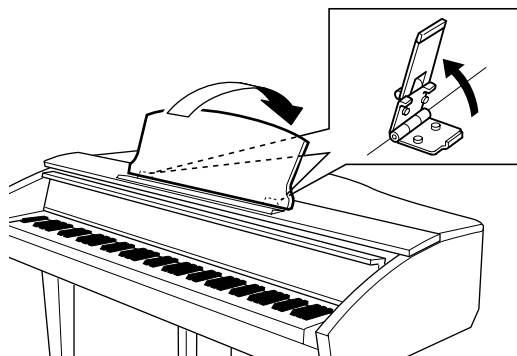
- ① 譜面板を、手前に起こします。
- ② 譜面板後側の金具2つを、下向きに開きます。
- ③ 譜面板を、固定される位置まで戻します。

※金具で譜面板部にキズをつけないように注意してください。



倒すとき

- ① 譜面板を、手前に起こします。
- ② 譜面板後側の金具2つを、上向きに密着するまで閉じます。
- ③ 譜面板に手を添えて、ゆっくり倒します。



補足

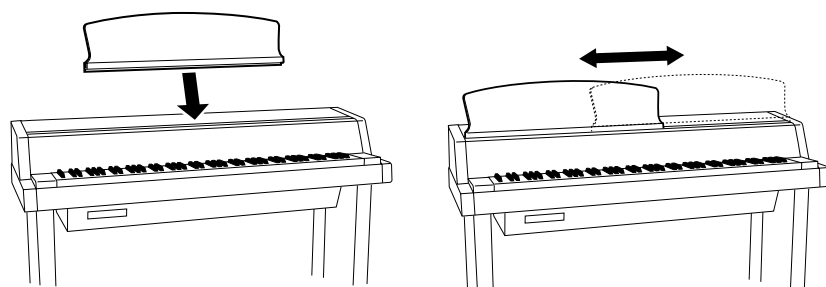
- ・譜面板の角度は変わりません。

!

- ・譜面板を倒すときには、手指をはさまないように注意してください。

DGP-5

本体上部の溝に差し込んで使用します。譜面板は左右に自由にスライドさせることができます。



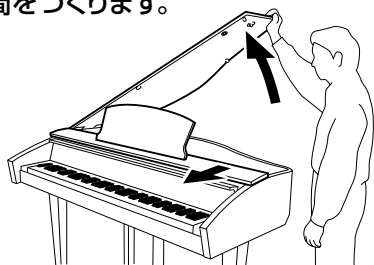
屋根の開閉について / DGP-7のみ (DGP-5の屋根は開閉しません)

開けるとき

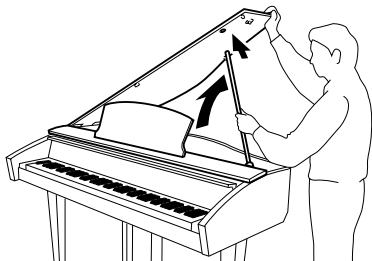
① 譜面板を立てます。



② 屋根を持ち上げます。屋根を上げると譜面台部が自動的に手前へスライドし、屋根と譜面台部との間にスキ間をつくります。

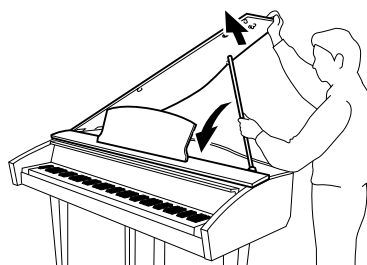


③ 屋根をしっかり支え、突上棒の先端を受皿に入れます。

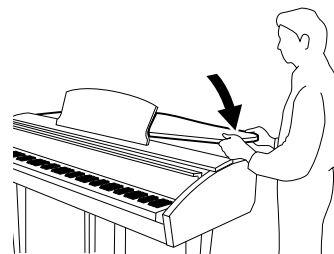


閉めるとき

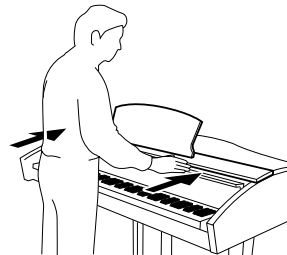
① 突上棒を片手で持ち、もう一方の手で屋根をしっかり支えて持ち上げます。
② 突上棒を寝かせます。



③ 両手で屋根を支えて閉じます。



④ 譜面台部がロックするまで、両手で平行に奥へ押し込んでください。



⊘ 屋根を閉じたまま譜面台部をつかんで引張らないようにしてください。スライド/ロック機構が故障する原因となります。

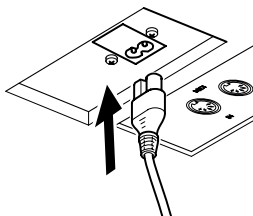
補足

- ・屋根の開閉時には手指をはさまないように注意してください。
- ・開閉は必ず大人が行ってください。
- ・屋根が開いているときは、下に頭や体を入れないでください。また突上棒に触れないでください。

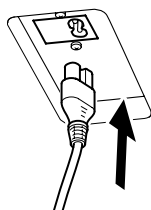
演奏する

1 電源コードを接続する

①本機後方の底面にあるACインレット端子に、電源プラグが接続されていることを確認します。
(5ページ参照)

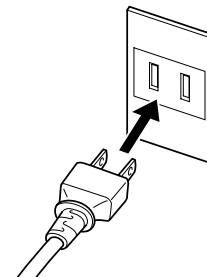


DGP-7の接続部

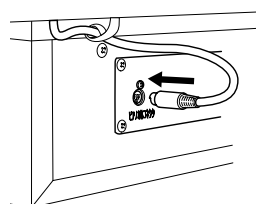


DGP-5の接続部

②家庭用(AC100V)コンセントに、電源プラグを差し込みます。



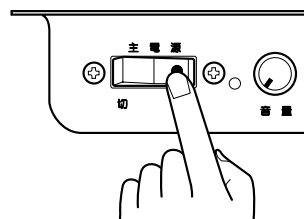
※DGP-5は背面高音側にある本体とスピーカーBOXとの接続部も確認してください。



DGP-5スピーカーBOXの接続部

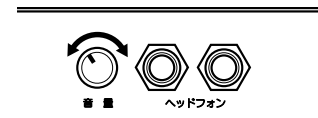
2 電源を入れる

電源スイッチの“入”側を押して、電源を入れます。
※電源ランプが点灯します。



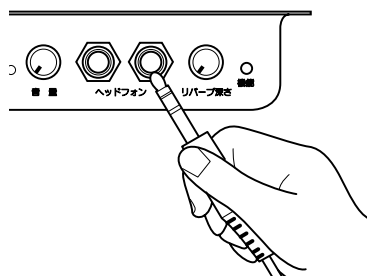
3 音量を調節する

音量ツマミを適度に回した後、実際に演奏して音量を決めます。

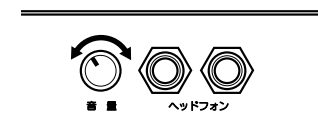


ヘッドフォンを使う場合

①ヘッドフォン(別売)を、ヘッドフォン端子に接続します。



②音量ツマミを適度に回した後、実際に演奏して音量を決めます。



補足

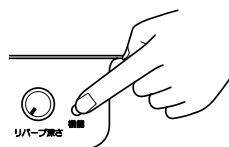
- ・ヘッドフォンを接続すると、本機のスピーカーからは音が出なくなりますから、夜間でも周りに迷惑をかけることがありません。ただし、鍵盤をたたく音は消せません。
- ・ヘッドフォンは2つまで接続できますので、演奏をもう一人のかたが確認したり、連弾も可能です。2つ接続する場合は、同じ仕様のものをご用意ください。(仕様の異なるヘッドフォンでは、音量や音色感が異なります。)

音色の選択

高品位のピアノ音色の他にDGP-5にはエレクトリックピアノ1、2の2音色を、DGP-7にはこの2音色に加えてハーブシコードとパイプオルガンの2音色の計4音色を装備しました。

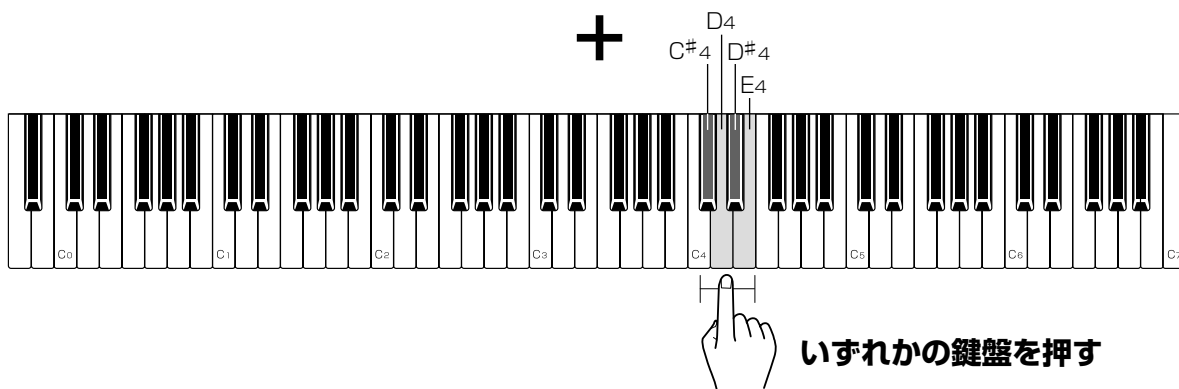
スイッチボックス(スイッチパネル)の機能スイッチを押しながら、C[#]4～E₄の鍵盤のどれかを押して使いたい音色を選びます。

音量ツマミを調整して、演奏してください。



機能スイッチを押しながら

+



いずれかの鍵盤を押す

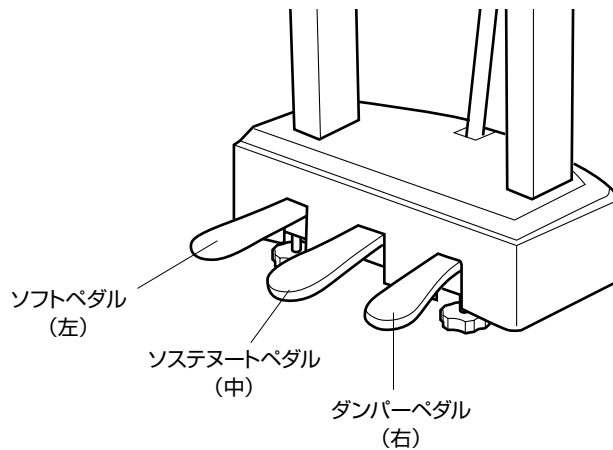
DGP-7	DGP-5	音色名	鍵盤	音色紹介
●	●	エレクトリックピアノ1	C [#] 4	FMシンセサイザーによる電子ピアノの音です。ポピュラー音楽に最適です。
●	●	エレクトリックピアノ2	D ₄	金属片をハンマーでたたいて発音させる電気ピアノの音です。弱く弾いたときは柔らかく、強く弾くと芯のある音がします。
●	—	ハーブシコード	D [#] 4	バロック音楽でよく使われる楽器の音です。タッチによって音量が変わることはありません。
●	—	パイプオルガン	E ₄	パイプオルガンのプリンシパル系(金管楽器系)の混合音栓の音(8フィート+4フィート+2フィート)です。バロック時代の教会音楽の演奏に適しています。

※ピアノの音色に戻るには、機能スイッチを押しながらC₄を押します。

補足

・選択した音色は電源を切ると解除され、ピアノ音色に戻ります。

音色選択時のペダル効果



本製品には、左からソフトペダル、ソステヌートペダル、ダンパーペダル(ラウドペダル)の3本のペダルがあり、ピアノ音色ではアコースティックピアノと同じ効果が得られます。(6ページ参照)
 ピアノ以外の音色では、ソフトペダルはコーラス効果のオン/オフの切り替えができます。
 コーラス効果は、音に広がりや厚みを加えるものです。
 ペダルは効果のオン/オフを切り替えるスイッチとして機能します。

音色名	効果	初期値
エレクトリックピアノ1	コーラス効果のオン/オフの切り替え	OFF
エレクトリックピアノ2		
ハーブシコード		
パイプオルガン		

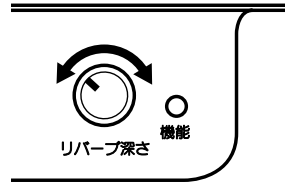
リバーブの設定

リバーブとは、音に残響を付け加えて音の響きを豊かにする効果です。

リバーブの深さを調節する

リバーブ深さつまみを回すことにより、リバーブの深さ(かかり具合)を調節することができます。

左へ回すと：
響きが浅く(弱く)なる



右へ回すと：
響きが深く(強く)なる

補足

・リバーブ深さつまみが左一杯の状態になっていると、リバーブはかかりません。

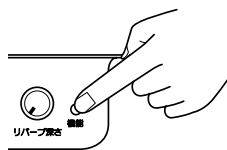
リバーブの設定

リバーブの種類を切り替える

リバーブの種類を切り替えることにより、その場所で演奏しているような臨場感を味わうことができます。スイッチボックス(スイッチパネル)の機能スイッチを押しながら C₂、C₂[#]、D₂ の鍵盤のどれかを押して、リバーブの種類を選びます。

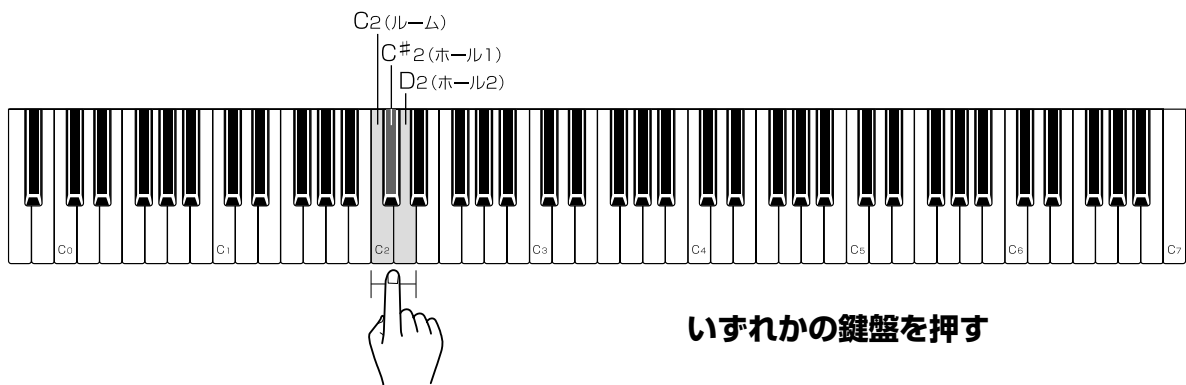
何も選択しない状態では、ホール1に設定されています。

リバーブの種類	鍵盤	効果
ルーム	C ₂	響きやすい部屋の中で弾いたときのような音
ホール1	C ₂ [#]	小さなコンサートホールの中で弾いたときのような音
ホール2	D ₂	大きなコンサートホールの中で弾いたときのような音



機能スイッチを押しながら

+



いずれかの鍵盤を押す

補足

・リバーブの種類の設定は電源を切ると解除され、ホール1の設定に戻ります。

ピッチを変える

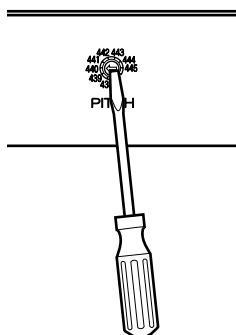
ピッチを切り替える

DGP-7ではスイッチボックスの裏面に、DGP-5では側面のスイッチパネルにピッチ切り替えスイッチがあり、スイッチを回すことによりピッチ(音程)を切り替えることができます。

一般的に標準のピッチはA₃=440ヘルツですが、声楽やオーケストラの演奏では曲によって、ピッチを変えることがあります。

ピッチを440ヘルツよりも上げると明るく冴えた感じの音になり、440ヘルツよりも下げると暗い感じになります。

あらかじめピッチが数値で分かっている場合は、ピッチ切り替えスイッチを使用してピッチを合わせてください。



●設定… 小型の- (マイナス) ドライバーで、回して設定します。

補足

- ・ピッチは438ヘルツ～445ヘルツの範囲内で、1ヘルツきざみの設定ができます。(1ヘルツ=約4セント)
- ・工場出荷時のピッチは、A = 440ヘルツになっています。

ピッチを微調整する

ピッチ切り替えスイッチで設定したピッチ(音程)を、さらに微調整することができます。

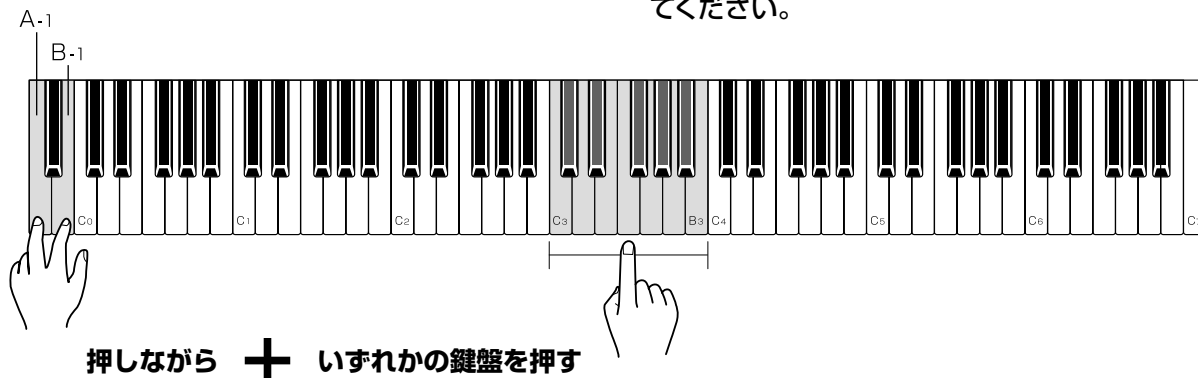
この機能を使うことにより、他の楽器とピッチを正確に合わせることができます。

合奏のときなどに楽器間でピッチがずれていると、両者の間で音にうなりが生じます。

本機と他の楽器の両方を鳴らしながら、うなりがなくなる高さに調整してください。

ピッチを上げるとき

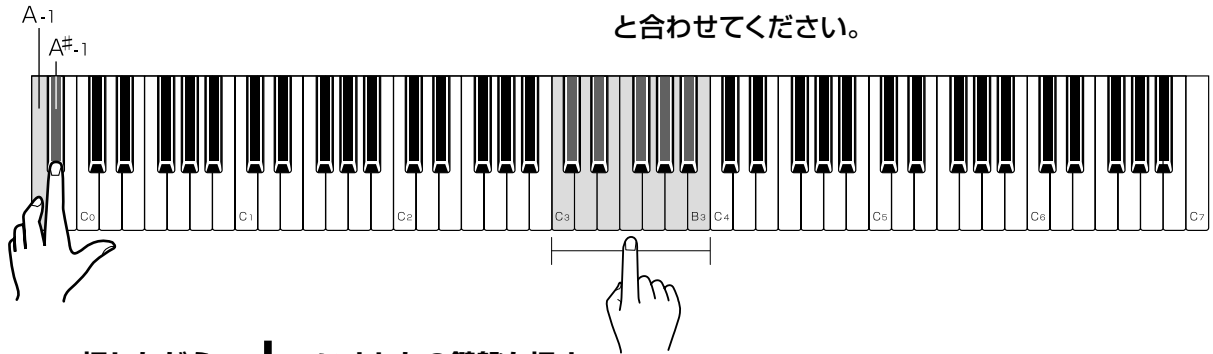
- ① A-1とB-1の鍵盤(左端の白鍵2つ)を同時に押しながら、
- ② C₃～B₃いずれかの鍵盤を押します。1回押すごとに少しずつピッチが上がります。音を聴きながらピッチをこきざみに上げて、他の楽器と合わせてください。



ピッチを変える

ピッチを下げるとき

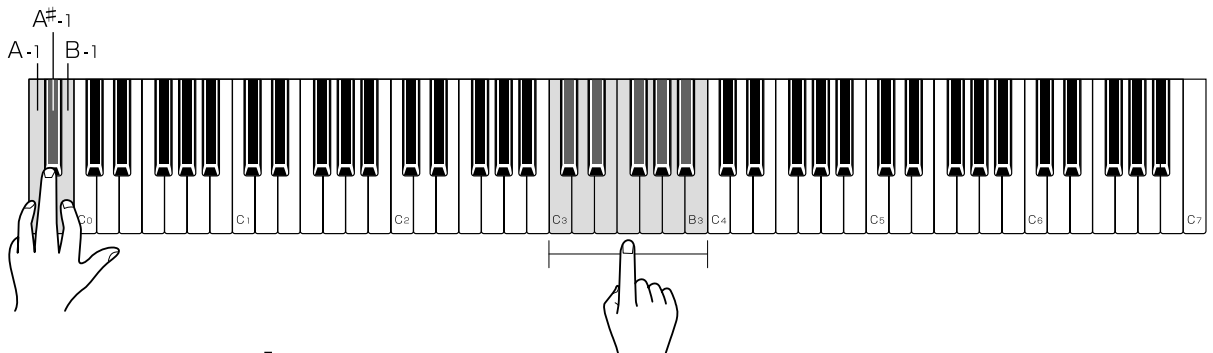
- ① A-1とA[#]-1の鍵盤(左端の白鍵と黒鍵)を同時に押しながら、
- ② C₃～B₃いずれかの鍵盤を押します。
1回押すごとに少しずつピッチが下がります。音を聴きながらピッチをこきざみに下げて、他の楽器と合わせてください。



押しながら **+** いずれかの鍵盤を押す

ピッチ切り替えスイッチで設定したピッチに戻すとき

- ① A-1とA[#]-1とB-1の鍵盤(左端の白鍵2つと黒鍵1つ)を同時に押しながら、
- ② C₃～B₃いずれかの鍵盤を1回押します。



押しながら **+** いずれかの鍵盤を押す

補足

- ・ピッチは±約50セントの範囲内で、約1.2セントきざみの設定ができます。(100セント=半音)
- ・鍵盤で設定したピッチは電源を切ると解除され、電源を入ると、ピッチ切り替えスイッチで設定したピッチに戻ります。
- ・試聴曲の再生モードや他音色デモモード(23～26ページ参照)の状態ではピッチを微調整することはできません。

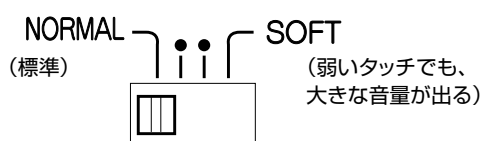
タッチの感度を切り替える

ピッチ切り替えスイッチのすぐ右側にタッチ切り替えスイッチがあります。(6ページ上図参照)

このスイッチを切り替えることにより、鍵盤を弾く強さによる音の強弱のつき方(タッチ感度)を変えることができます。

全部で4段階切り替えとなっておりNORMALが標準です。

右へスライドさせる程に弱めに弾いても大きな音が出るようになります。右端のSOFTの位置で効果は最大になります。



TOUCH

補足

- ・一度タッチ切り替えスイッチで設定したタッチは、電源を切っても解除されません。
タッチ切り替えスイッチを使い、お好みのタッチ感度に調節してください。

キー(調)を変える(トランスポーズ)

弾く鍵盤を変えずに、ほかの楽器や歌う人の声の高さにキー(調)を合わせたり、演奏する曲を移調したりすることができます。半音単位で±6の範囲でトランスポーズ量が設定できます。

たとえばトランスポーズ量を「5」に設定すると、「ド」の鍵盤を弾いたときに「ファ」の音が出ることになり、「ハ長調」の弾きかたで「ヘ長調」の演奏になります。

たとえば+5半音ずらすと

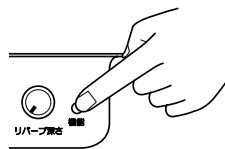


のように弾いたものが



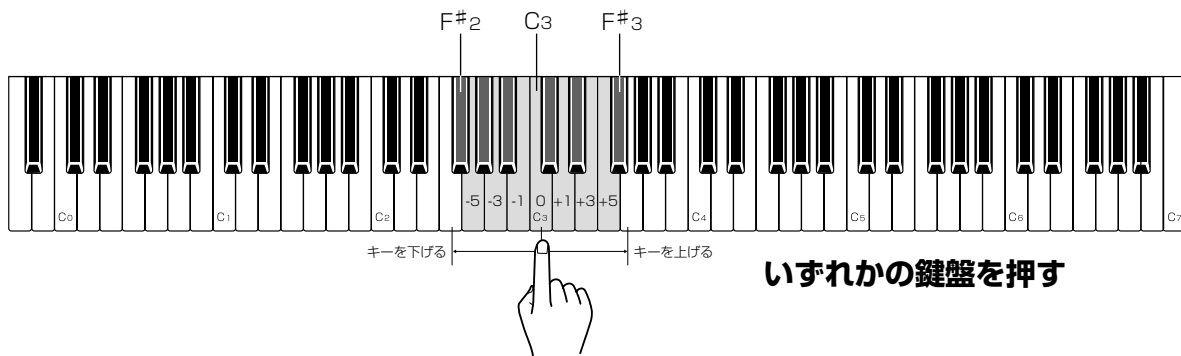
のように鳴ります。

スイッチボックス(スイッチパネル)の機能スイッチを押しながら $F\#_2 \sim F\#_3$ 鍵盤のどれかを押してトランスポーズ量を設定します。



機能スイッチを押しながら

+



C_3 鍵盤を押すと標準の音の高さになります。 $F\#_2 \sim B_2$ 鍵盤を押すと半音単位でキーが下がり、 $C\#_3 \sim F\#_3$ 鍵盤を押すと半音単位でキーが上がります。

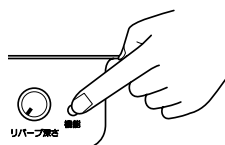
補足

・トランスポーズは電源を切ると解除され、標準の音の高さに戻ります。

リヤスピーカーの音量バランス / DGP-7のみ

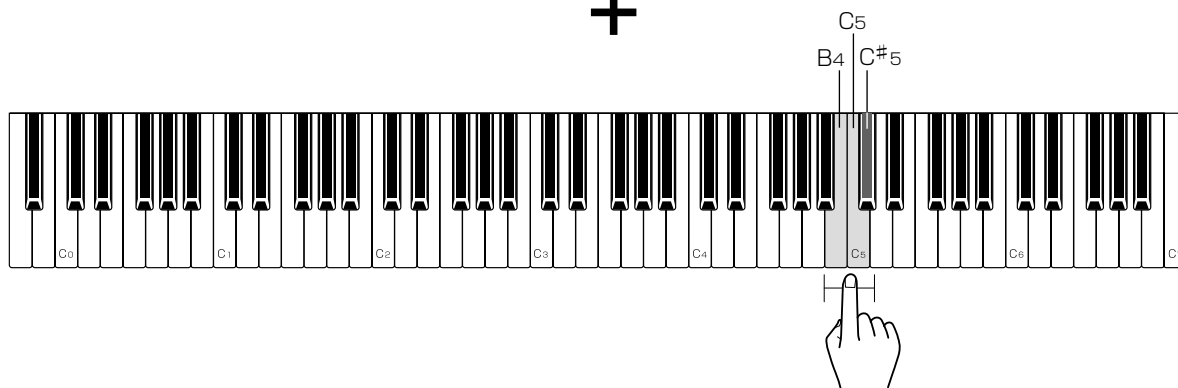
DGP-7にはリヤスピーカーが装備されており、奥行の広がり感を増す効果が得られます。
さらにリヤスピーカーの音量バランスを切り替えて効果を変化させることもできます。
スイッチボックス(スイッチパネル)の機能スイッチを押しながら B₄、C₅、C[#]₅ の鍵盤のどれかを押して
音量バランスを調整します。

鍵盤	効果
B ₄	効果が少なくなる
C ₅	標準
C [#] ₅	効果が大きくなる



機能スイッチを押しながら

+



いずれかの鍵盤を押す

補足

・リヤスピーカーの音量バランス調整は電源を切ると解除され、標準のバランスに戻ります。

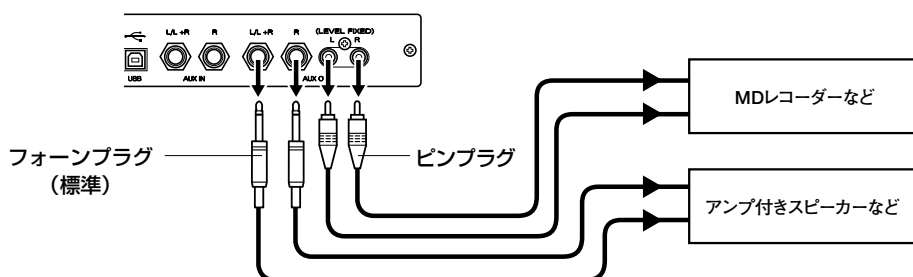
他の機器と接続する

DGP-7では底面、DGP-5では側面にある端子部を使って、他の機器と接続できます。
ここでは、AUX端子の使用例をご紹介します。

AUX出力(AUX OUT[L][R]ピン端子、[L/L+R][R]標準フォン端子)の使用例

MDレコーダーに接続すると：本機での演奏を録音できます。

アンプ付スピーカーに接続すると：アンプ付スピーカーからも音を出すことができます。

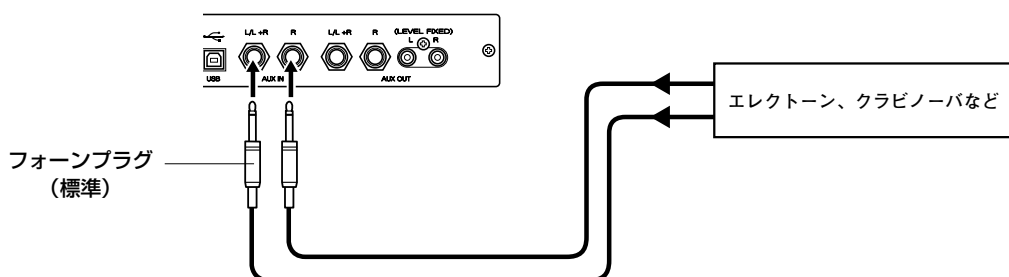


・本体のAUX OUTを使う場合、電源を入れるときは本体 → 外部オーディオ機器の順に、
電源を切るときは、外部オーディオ機器 → 本機の順に行ってください。

AUX入力(AUX IN[R][L/L+R]端子)の使用例

他の楽器を接続すると：他の楽器の演奏音を、本機のスピーカーで鳴らすことができます。

AUX INからの入力音には本機の音量コントロールは効きますが、
リバーブなどの効果は効きません。



・接続は、必ず両機器の電源を切ってから行ってください。また電源を入れたり切ったりする前に、
必ず機器のボリュームを最小(0)にしてください。

補足

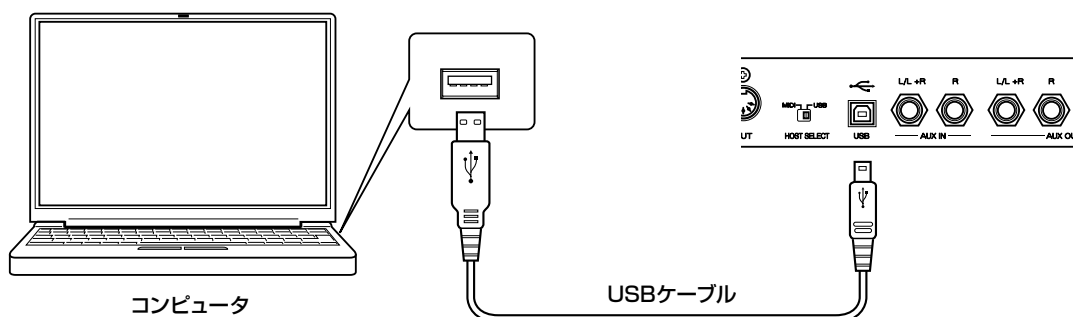
・オーディオ接続コードおよび変換アダプターは、抵抗のないものをお使いください。
・モノ入力、モノ出力にはAUX IN(L/L+R) AUX OUT(L/L+R)をお使いください。

パーソナルコンピュータと接続する

本機とパーソナルコンピュータを接続することにより、コンピュータと本機の間でMIDIデータをやり取りすることができます。

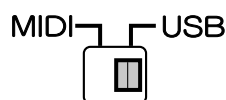
接続方法

コンピュータのUSB端子をUSBケーブル(別売)で本機のUSB端子に接続します。USB端子にはA端子とB端子の2種類がありますが、本機のUSB端子はB端子になります。USBケーブルのAタイプのコネクターをコンピュータのUSB端子に、Bタイプのコネクターを本機のUSB端子に接続してください。



HOST SELECTスイッチの設定

本機のHOST SELECTスイッチを【USB】に設定します。



HOST SELECT

USBドライバについて

コンピュータのUSB端子と本機のUSB端子を接続してデータのやりとりをするためには、指定のUSBドライバ(YAMAHA USB MIDI Driver)をコンピュータにインストールする必要があります。YAMAHA USB MIDI Driverは下記のWebサイトからダウンロードすることができます。
http://www.yamaha.co.jp/download/usb_midi/

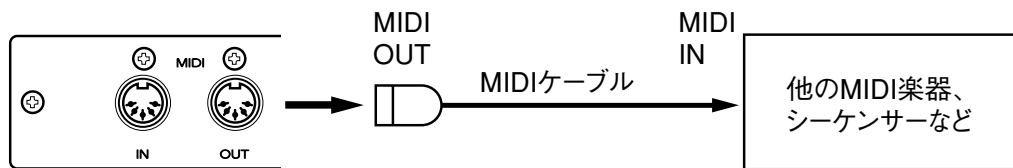
補足

他のMIDI機器と接続する

MIDI端子を使って、他のMIDI機器と接続できます。
ここでは、MIDI端子の使用例をご紹介します。

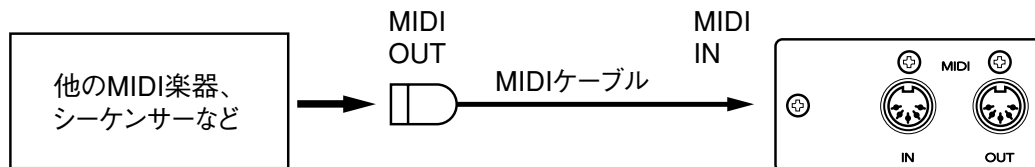
MIDI出力(MIDI OUT)端子の使用例

他のMIDI楽器に接続すると：本機での演奏を、他のMIDI楽器の音色で鳴らすことができます。
シーケンサーに接続すると：本機での演奏情報を、シーケンサーに記録できます。



MIDI入力(MIDI IN)端子の使用例

他のMIDI楽器を接続すると：他のMIDI楽器の演奏を、本機のピアノ音色で鳴らすことができます。
シーケンサーなどを接続して、再生すると：シーケンサーなどに記録されている演奏情報を、本機のピアノ音色で鳴らすことができます。

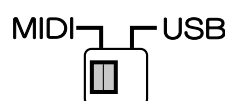


補足

- ・接続は、必ず両機器の電源を切ってから行ってください。
- ・MIDI端子を装備した機器に限り、接続が可能です。MIDIは、MIDI機器同士の連携プレイを可能にするメーカーを超えた世界共通の規格です。

HOST SELECTスイッチの設定

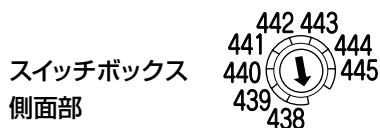
本機のHOST SELECTスイッチを[MIDI]に設定します。



HOST SELECT

MIDI受信チャンネルの切り替え

ピッチ切り替えスイッチで、MIDI受信チャンネルを切り替えることができます。通常MIDIの送受信はチャンネル1に設定されていますが、ピッチ切り替えスイッチを438ヘルツの1つ右にある目盛に合わせて、チャンネル1+2の受信が可能になります。



PITCH

-(マイナス)ドライバーで回して、438の1つ右の目盛に設定します。

補足

- ・MIDIの受信をチャンネル1+2に設定した場合、ピッチは440ヘルツに固定されます。ただし、鍵盤による微調整は可能です。(14~15ページ参照)
- ・右手パートと左手パートを別々のチャンネルに設定してある曲を再生するときなどに受信チャンネルを1+2に設定します。

ローカルコントロールオン/オフの設定

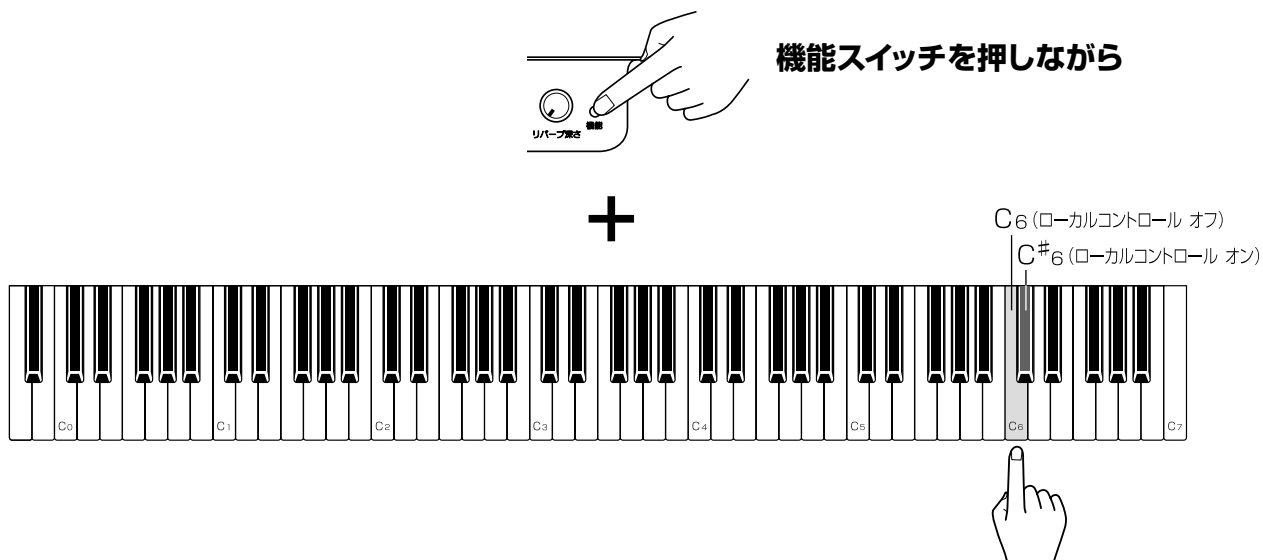
通常、本機の鍵盤を弾くと本体内部の「音源部」から音が出ます。この状態は「ローカルコントロールオン」と呼ばれます。

「ローカルコントロールをオフ」にすると、「鍵盤」と「音源」が切り離され、鍵盤を弾いても本機からは音が出なくなります。一方、鍵盤を弾いた演奏データはMIDI送信されますので、本機では音を鳴らさずにMIDI接続した外部の音源を鳴らしたいときに、ローカルコントロールをオフにします。

設定方法は

ローカルコントロールをオフにするにはスイッチボックス(スイッチパネル)の機能スイッチを押しながらC₆の鍵盤を押します。

ローカルコントロールをオンにするには機能スイッチを押しながらC_{#6}の鍵盤を押します。



C₆または、C_{#6}の鍵盤を押す

試聴曲の再生

本機には試聴用の曲が50曲入っており、再生させることができます。

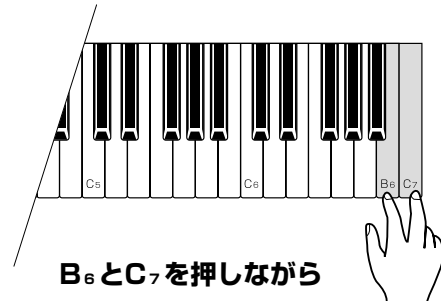
※スイッチボックスにある音量つまみの位置にご注意ください。

標準音量は、音量つまみが時計の3時の位置になるように設定されています。

- ① B₆とC₇の鍵盤（右端の白鍵2つ）を同時に押しながら、電源を入れます。
電源を入れて約1～2秒後に鍵盤を戻してください。

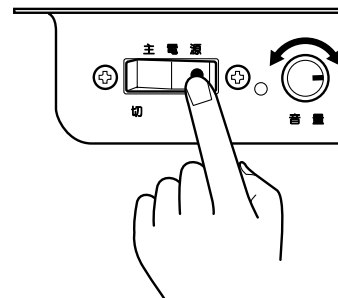
補足

・鍵盤を戻すタイミングが遅いと、試聴曲の再生モードになりません。



+

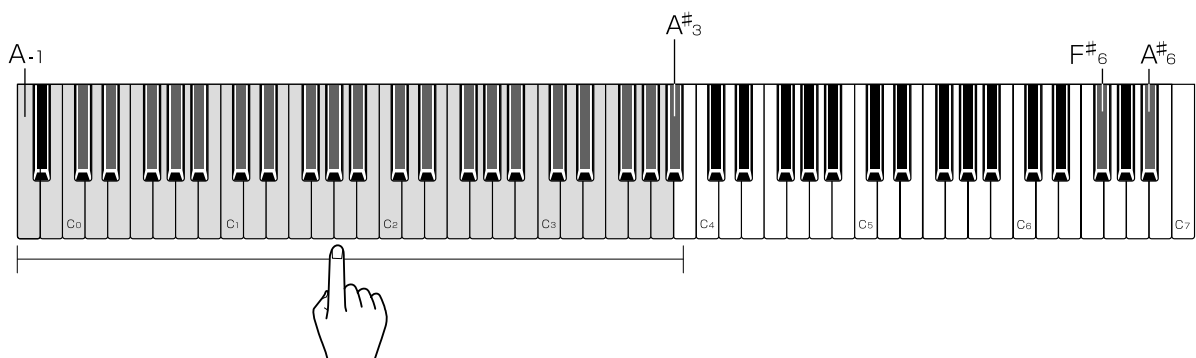
電源を入れる



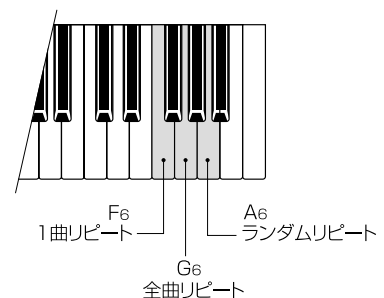
全曲リピートになり、1曲目から50曲目までが繰り返し再生されます。

- ② 音量を調整します。

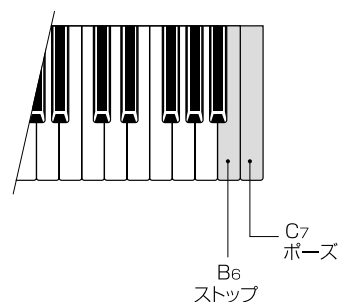
- ③ 操作①の後に聴きたい曲を直接指定して再生させるときは、A₋₁～A_{#3}のいずれかの鍵盤を押します（ダイレクト選曲）。押した鍵盤の曲が再生され、終わると次の曲が再生されます。再生されている曲の1曲前の曲を選曲するにはF_{#6}の鍵盤を、1曲後の曲を選曲するにはA_{#6}の鍵盤を押します。



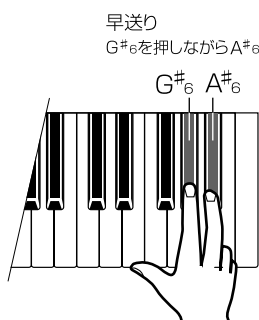
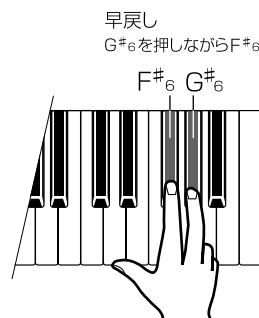
- ④ A₆の鍵盤を押すと、全曲をランダムな曲順で再生します（ランダムリピート）。F₆の鍵盤を押すと、現在選曲されている曲を繰り返し再生します（1曲リピート）。また、再度全曲リピートさせるときはG₆を押します（全曲リピート）。



- ⑤ 試聴曲の再生中にC₇の鍵盤を押すと、再生を一時停止し（ポーズ）、もう1回C₇の鍵盤を押すと、再生を再開します。B₆の鍵盤を押すと、再生が停止します（ストップ）。スタートするにはC₇の鍵盤を押します。
- ※一時停止状態では再生の再開以外の操作はできませんので、C₇の鍵盤を押して一時停止状態を解除してから、他の操作を行ってください。



- ⑥ 試聴曲の再生中に G_{#6}の鍵盤を押しながらF_{#6}の鍵盤を押すと、音を出しながら早戻しを行います。G_{#6}の鍵盤を押したまま、F_{#6}の鍵盤を離すと、一時停止（ポーズ）し、G_{#6}の鍵盤を離すと再生します。同様にG_{#6}の鍵盤を押しながらA_{#6}の鍵盤を押すと、音を出しながら早送りをを行います。G_{#6}の鍵盤を押したまま、A_{#6}の鍵盤を離すと、一時停止（ポーズ）し、G_{#6}の鍵盤を離すと再生します。
- ※ G_{#6}の鍵盤が押されている間は、早戻し・早送りを再開することができます。



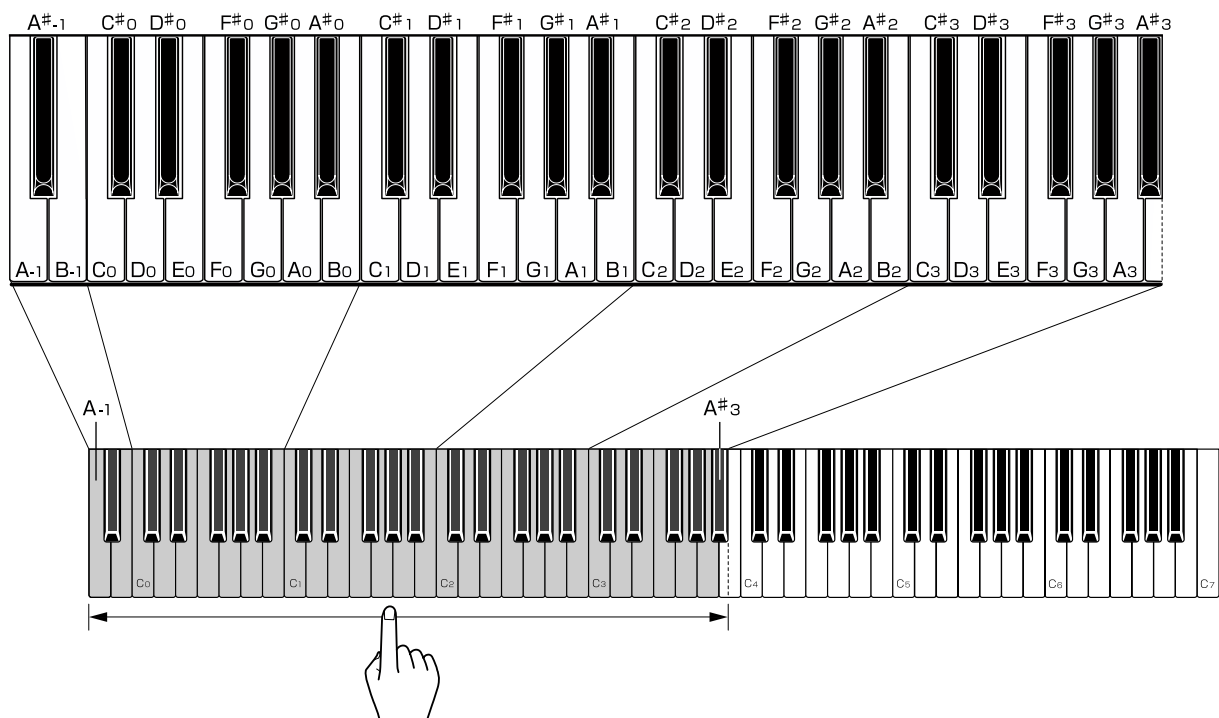
- ⑦ 試聴曲の再生モードを解除するときは、電源を入れ直します。

補足

・電源を切るまでは、再生が停止していても再生モードになっているため、C₇の鍵盤を押した時点で再生が始まってしまいます。

試聴曲一覧

曲番号 (鍵盤)	曲名/作曲者名	曲番号 (鍵盤)	曲名/作曲者名
1(A-1)	インベンション第1番/バッハ	26(A#1)	革命のエチュード/ショパン
2(A#-1)	インベンション第8番/バッハ	27(B1)	小犬のワルツ/ショパン
3(B-1)	ガボット/バッハ	28(C2)	ワルツ第7番/ショパン
4(C0)	前奏曲(平均律第1巻第1番)/バッハ	29(C#2)	ワルツ第9番「告别」/ショパン
5(C#0)	メヌエット長調/バッハ	30(D2)	夜想曲第2番変ホ長調/ショパン
6(D0)	かっこう/ダカン	31(D#2)	トロイメライ/シューマン
7(D#0)	ピアノソナタ第15番第1楽章/モーツァルト	32(E2)	楽しき農夫/シューマン
8(E0)	トルコ行進曲/モーツァルト	33(F2)	乙女の祈り/パダジェフスカ
9(F0)	メヌエット長調/モーツァルト	34(F#2)	人形の夢と目覚め/オースティン
10(F#0)	リトル・セレナーデ/ハイドン	35(G2)	アラベスク/ブルグミュラー
11(G0)	ソナタ第1番 終楽章「無窮動」/ウェーバー	36(G#2)	牧歌/ブルグミュラー
12(G#0)	エコセーズ/ベートーヴェン	37(A2)	貴婦人の乗馬/ブルグミュラー
13(A0)	エリーゼのために/ベートーヴェン	38(A#2)	愛の夢第3番/リスト
14(A#0)	トルコ行進曲/ベートーヴェン	39(B2)	花の歌/ランゲ
15(B0)	「悲愴」第2楽章/ベートーヴェン	40(C3)	舟歌/チャイコフスキー
16(C1)	「月光」第1楽章/ベートーヴェン	41(C#3)	へ調のメロディ/ルビンシュタイン
17(C#1)	ピアノソナタ第20番ト長調第1楽章/ベートーヴェン	42(D3)	ユーモレスク/ドヴォルザーク
18(D1)	即興曲作品90第2番/シューベルト	43(D#3)	タンゴ(スペインより)/アルベニス
19(D#1)	楽興の時第3番/シューベルト	44(E3)	エンターテイナー/ジョプリン
20(E1)	春の歌/メンデルスゾーン	45(F3)	メイプル・リーフ・ラグ/ジョプリン
21(F1)	狩人の歌/メンデルスゾーン	46(F#3)	亜麻色の髪の乙女/ドビュッシー
22(F#1)	幻想即興曲/ショパン	47(G3)	アラベスク第1番/ドビュッシー
23(G1)	雨だれの前奏曲/ショパン	48(G#3)	月の光/ドビュッシー
24(G#1)	黒鍵のエチュード/ショパン	49(A3)	夢/ドビュッシー
25(A1)	別れの曲/ショパン	50(A#3)	ケーキウォーク/ドビュッシー



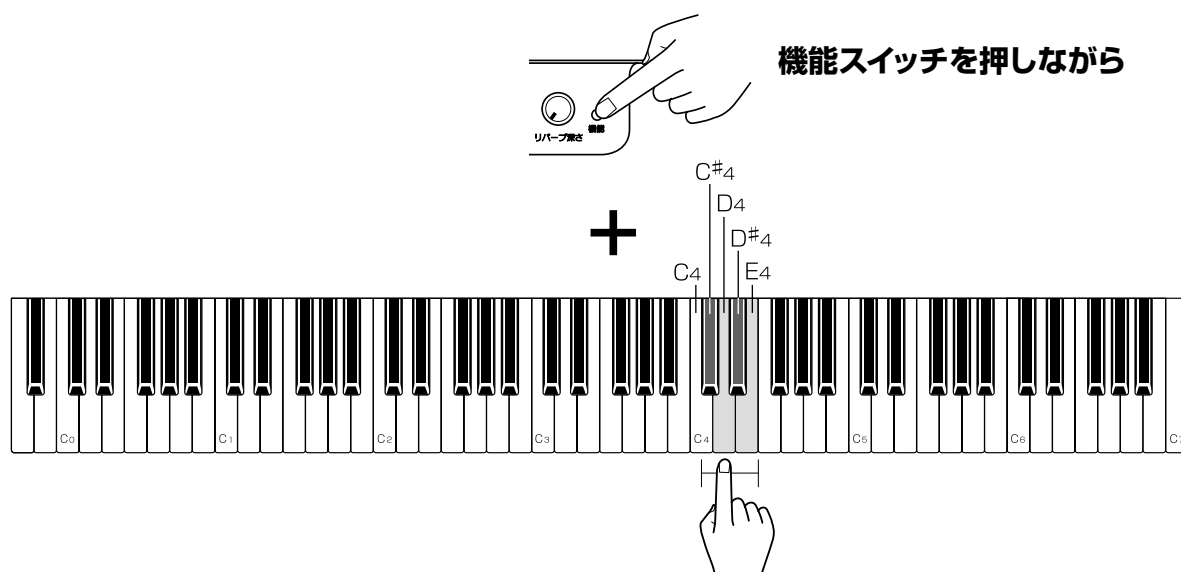
他音色デモ曲の再生

ピアノ以外に、DGP-7は4音色、DGP-5は2音色を持っていますが、この音色ごとに1曲ずつデモ曲が用意されています。

再生方法は

- ① 試聴曲の全曲リピート再生時に、スイッチボックス (スイッチパネル) の機能スイッチを押しながら C[#]4 ~ E⁴ の鍵盤を押して聞きたい音色を選ぶと、他音色デモの再生が始まります。
- ② 他音色デモ曲が終了、もしくは再生中に機能スイッチを押しながら C⁴ を押すと、ピアノ試聴曲の再生モードに戻ります。

音色名	鍵盤	曲名(DGP-7)	曲名(DGP-5)
エレクトリックピアノ1	C [#] 4	オリジナル曲	オリジナル曲
エレクトリックピアノ2	D ⁴	オリジナル曲	オリジナル曲
ハーブシコード	D [#] 4	かっこう	—
パイプオルガン	E ⁴	アヴェ・マリア	—



**C[#]4 ~ E⁴ の鍵盤を押す
(ピアノ試聴曲にもどるには C⁴ を押す)**

お手入れ

- ◆表面についたほこりは、ピアノ用の毛ばたきかやわらかな布で軽くから拭きします。表面の艶がなくなってきた時には、専用のヤマハピアノユニコン(別売)でムラなく拭きあげてください(脚部、ペダル部除く)。市販の化学雑巾等の外装手入れ剤は成分が分かりませんので、使用はさけてください。
- ◆汚れた手で弾かない習慣をつけましょう。
- ◆鍵盤の汚れが目立つときは、ヤマハピアノキークリーナー(別売)のご使用をお勧めします。
- ⊗ 強く拭いたり拭きすぎると、塗装に悪い影響を与えることがありますのでご注意ください。

音のエチケット



これは日本電子機械工業会
「音のエチケット」キャンペ
ーンのマークです。

音楽を楽しむエチケット

楽しい音楽も時と場所によっては、大変気になるものです。隣近所への配慮を十分にしましょう。静かな夜間には小さな音でもよく通り、特に低音は床や壁などを伝わりやすく、思わぬところに迷惑をかけてしまうことがあります。適当な音量を心がけ、窓を閉めたり、ヘッドフォンを使用するのもひとつの方法です。お互いに心を配り、快適な生活環境を守りましょう。

お引っ越しのときには

必ず専門業者または巻末のヤマハサービス網にご依頼ください。

おもな仕様

品 番		DGP-7	DGP-5
鍵盤		88鍵(A-1~C7、7オクターブ1/4)	
アクション		グランドピアノ アクション方式	
センサーユニット		キーセンサー、ハンマーセンサー、ペダルセンサー	
最大同時発音数		64音(ステレオサンプリング)	
効果・機能		リバーブ(ルーム、ホール1、ホール2)、ピッチコントロール、 タッチ感度切り替え、トランスポーズ	
ペダル		ソフトペダル、ソステヌートペダル、ダンパーペダル	
その他コントロール		電源スイッチ(ランプ付)、音量ツマミ、リバーブ深さツマミ、 機能スイッチ、ピッチ切り替えスイッチ、タッチ切り替えスイッチ、ホストセレクトスイッチ	
付属端子		ヘッドフォン端子×2、AUX IN端子(L/L+R、R)、AUX OUT端子(L/L+R、R)、 AUX OUT端子(LEVEL FIXED)(L、R)、MIDI端子(IN、OUT)、USB端子、ACインレット端子	
アンプ	フロント	60W×2	60W×2
	リヤ	20W×2	—
スピーカー	フロント	16cmウーハー×2、10cmスクーカー×2、 2.5cmツイーター×2	16cmウーハー×2、2.5cmツイーター×2
	リヤ	10cm×2	—
定格電源電圧、周波数		AC100V、50/60Hz	
定格消費電力		110W	96W
外装仕上げ		黒鏡面艶出し塗装	黒鏡面艶出し塗装(脚部、ペダル部除く)
寸法		間口147cm、奥行95cm、 高さ93cm(147cm)*1	間口147cm、奥行53cm、 高さ90cm(107cm)*2
重量		117kg	96kg
付属品		取扱説明書、AC電源コード、楽譜集「ピアノで弾く名曲50選」、 鍵盤カバー(DPG-5のみ)	

*1 高さは屋根を閉じて譜面板を倒した場合。高さ()内は屋根を開けた場合。

*2 高さ()内は譜面板を含む。

※仕様および外観は、改良のため予告なく変更することがあります。

おかしいなと思ったら

おかしいなと思ったときは、まずこの表に沿って調べてください。

現象	原因	解決法
本機の電源が入らない。	電源プラグが、コンセントに差し込まれていない。	家庭用(AC100V)コンセントに、確実に差し込んでください。→9ページ
	電源プラグが、本機側に差し込まれていない。	本機後方底面のACインレット端子に、確実に差し込んでください。→9ページ
	電源スイッチが切れている。	電源スイッチの“入”側を押して、電源を入れてください。→9ページ
電源スイッチON、OFF時に「カチ」と音がする。	—	電気が流れたためです。ご心配いりません。
全く音が出ない。	音量ツマミが最小になっている。	音量ツマミを右に回して、音量を上げてください。→9ページ
	ヘッドフォンを接続している。	ヘッドフォンのプラグを抜くか、またはヘッドフォンで聴いてください。→9ページ
	本体とスピーカーボックスを接続するケーブルのプラグが抜けている。(DGP-5のみ)	背面高音側のコネクター部の接続を確認してください。→9ページ
	ローカルコントロールがオフになっている。	ローカルコントロールをオンにしてください。→22ページ
演奏時に「カタカタ」と音がする。	鍵盤をたたく音です。	故障ではありません。
	ペダル部のアジャスターが床から浮いている。	アジャスターを回して、床にぴったりつけてください。→6ページ
リバーブがかからない。	リバーブ深さツマミが、左一杯の状態になっている。	リバーブ深さツマミを右に回して、適度な深さに設定してください。→12ページ
音が残りすぎる。(残響がかかりすぎる。)	リバーブ深さツマミの設定が深すぎる。	リバーブ深さツマミを左に回して、適度な深さに設定してください。→12ページ
他の楽器とピッチが合わない。	トランスポーズがかかっている	トランスポーズ量を0にしてください。→17ページ
	ピッチ切り替えスイッチが、他のピッチ位置になっている。	ピッチ切り替えスイッチのピッチ位置を、他の楽器のピッチに合わせてください。→14ページ
	本機で可変できるピッチの範囲を越えている。	他の楽器側でピッチを変えてください。
AUX端子を使って接続したが、両機器間の音量のバランスがとれない。	片方の機器のボリューム(音量ツマミ等)だけで、音量を調節しようとしている。	両機器のボリューム(音量ツマミ等)を操作して、音量バランスをとってください。
他のMIDI機器と、情報をやりとりできない。	MIDIケーブルの接続が不完全。	両機器のMIDI OUTとMIDI IN端子間を、MIDIケーブルで確実に接続してください。→21ページ
	本機のMIDI送信チャンネルまたは受信チャンネルと合っていない。	他の機器のMIDI送信チャンネルまたは受信チャンネルを、チャンネル1(または1+2)にしてください。→22ページ
	HOSTセレクトスイッチがUSBになっている。	HOSTセレクトスイッチをMIDIに切り替えてください。→21ページ

保証とサービスについて

本機の保証期間は、保証書に記入されたご購入の日付から1ヶ年です（現金、ローン、月賦などによる区別はございません）。また保証は、日本国内にてのみ有効といたします。

保証書

保証書をお受け取りの時は、お客さまのご住所、お名前、お買上げの年月日、販売店名などを必ずご確認ください。無記名の場合は無効となりますので、くれぐれもご注意ください。

保証書は大切に保管しましょう。

保証書は弊社が、本機をご購入いただいたお客さまに、保証規定に則りご購入の日から向こう1ヶ年の無償サービスをお約束申し上げるものですが、万一紛失なさいますと保証期間中であっても実費を頂戴させていただくこととなります。いつでもご提示いただけますように、十分ご配慮の上で保管してください。また、後々のサービスに際しての機種判別やサービス依頼店の確認などにも役立ちます。保証期間が切れましても、お捨てにならないでください。

保証期間中のサービス

保証期間中に万一故障が発生した場合、お買上げ店にご連絡いただきますと、技術者が修理・調整致します。この際、必ず保証書をご提示ください。保証書なき場合には、サービス料金をいただく場合もあります。またお買上げ店より遠方に移転される場合は、事前にお買上げ店あるいはヤマハにご連絡ください。移転先におけるサービス担当店をご紹介申し上げますと同時に、引き続き保証期間中のサービスを責任をもって行うよう手続き致します。

満1ヶ年の保証期間を過ぎますとサービスは有料となりますが、引き続き責任をもってサービスをさせていただきます。なお、補修用性能部品の保有期間は最低8年となっています。そのほかご不明な点などございましたら、下記のヤマハサービス網までお問い合わせください。

本機についてのお問い合わせは、最寄りのヤマハピアノ特約店／下記のヤマハへ

◇ピアノの機能や取り扱いについてのお問い合わせ

最寄りの特約楽器店、または下記ヤマハお客様コミュニケーションセンターへお問い合わせください。

お客様コミュニケーションセンター ピアノご相談窓口
ナビダイヤル 0570-003-808

携帯電話、PHS、IP電話からは下記番号へおかけください。
TEL 053-460-4835

営業時間 月～金 10:00～18:00 / 土 10:00～17:00（祝日およびセンター指定休日を除く）
<http://www.yamaha.co.jp/support/>

◇ピアノの修理についてのお問い合わせ

お買上げ店、または下記ヤマハ修理ご相談センターへお問い合わせください。

ヤマハ修理ご相談センター
ナビダイヤル 0570-012-808

携帯電話、PHS、IP電話からは下記番号へおかけください。
TEL 053-460-4830

営業時間 月～金 9:00～18:00 / 土 9:00～17:00（祝日およびセンター指定休日を除く）

◇その他、本機全般についてのお問い合わせ

ヤマハ株式会社 国内営業本部 鍵盤企画部 ピアノ企画グループ
〒108-8568 東京都港区高輪2-17-11
TEL 03-5488-5442

※名称、住所、電話番号などは変更になる場合があります。